

実践例報告

株式会社 CMU Holdings
学習支援員 徳田由佳



自己紹介



徳田 由佳

大学で情報処理を学び、
卒業後は企業にて
業務アプリケーション開発を担当

2010年に1034gで長女が生まれ、
脳性麻痺の診断を受ける

就労継続ができず、退職
(2013年 長男出産)

現在は娘（医療的ケア児）を介護しながら、
手話通訳の仕事を行っている

実践例

ワークセンターこむたん 様

府中市

ワークセンターこむたん 様

生活介護事業と

就労継続支援事業を行う



いつか就職したい。いろんなことをやってみたい。

社会福祉法人あけぼの福祉会のワークセンターこむたんでは生まれ育った地域でくらし、働く。そんなあたり前の願いを叶えられるよう、ひとり一人の夢やねがいを大切に活動をめざしています。

そして、個々にあった働き方、働く中で自信や誇りを高められるような働きがいのある人間らしいしごとを追求しています。肢体不自由、視覚障害、脳血管障害、高次脳機能障害、知的障害といった幅広い障害状況のメンバーが集い、働き、励まし、助け合って活動しています。（HPより）

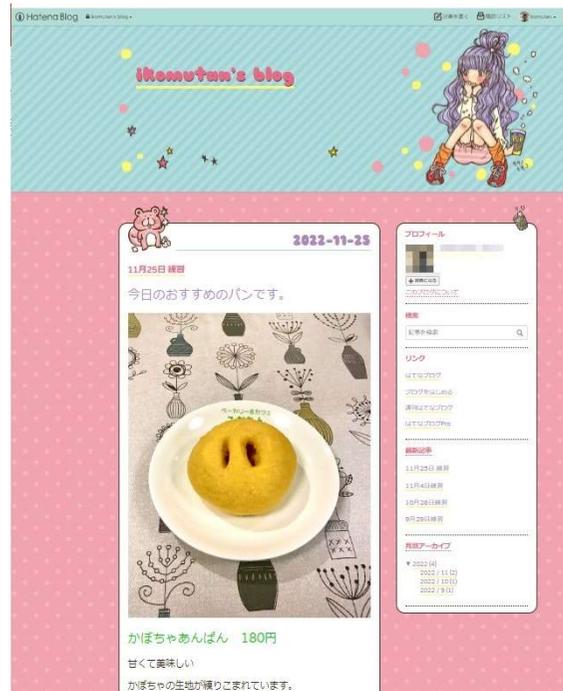
支援対象者

- 30代男性
- 肢体不自由(ロフトランド杖にて歩行)
- 会話でコミュニケーション可能
- 細かい指先の操作が難しい
- 文章理解の問題はなし
- 特別支援学校高等部卒
- 穏やかな性格
- 野球観戦、音楽鑑賞が好き



昨年の学習

⇒色々アプリを試し、会話していく中で、
デザインのような作業に興味があることがわかった



今年度の目標

- ・将来的な目標⇒「施設の情報発信を担う」
- ・SNSを使うことを今年度の目標とした
 - ⇒施設がカフェをリニューアル時にInstagramを開始
 - ⇒それに合わせ、Instagram・Facebookを勉強
 - ⇒併せて、zoomの発表練習も行った

ご本人の発表や支援員インタビューをご覧ください

今後の予定

投稿の作成

- ご本人が投稿を作成

共同投稿申請

- インスタグラムの機能で、施設の公開インスタグラムへ共同投稿申請

施設が承認

- 施設は投稿内容をチェック & 承認

施設の投稿として利用者の投稿が表示される

今年度の課題

モチベーションの低下

- SNSからの情報漏洩防止を目的に、非公開設定で投稿練習のため誰からも「いいね」等の反応がない。
- 練習していることが何に繋がるのかのイメージが持てない？



解決方法

施設内で投稿を発表する機会を作ってもらった
SNSで外部と繋がることは今後の目標

学習を継続するために

支援員がインプット・アウトプットの意識を持つ

- ・勉強したことをアウトプットし、他人の評価(反応)につなげる
例)施設内発表会・外部展覧会・行事内での演奏など
- ・「今、勉強している」ということ自体を身近な人に知ってもらう
そして…「声をかけてもらう」
- ・SNSを利用した外部とのつながりを徐々に広げていき、
様々な情報に触れてもらう(定期的なチェックは必要)

施設側・ご家族とも連携しながら、学習を継続する意欲を引き出す